

平成 19 年 11 月 21 日

各 位

会 社 名 株式会社ホロン
 代表者名 代表取締役社長 富加津好夫
 (J A S D A Q ・ コード 7748)
 問合せ先 取締役総務部長 加藤 邦彦
 電話 03-3341-6431

特別損失の発生並びに平成 20 年 3 月期中間期及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成20年3月期中間期において特別損失が発生いたしますのでお知らせするとともに、平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績予想について、平成19年5月10日付当社「平成19年3月期決算短信(非連結)」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生

当中間会計期間において、当社は以下の資産について減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
所沢テクニカル・センター(埼玉県所沢市)	製品製造設備 研究開発設備	土地及び建物等
本社(東京都新宿区)	営業設備	リース資産等

当社は、単一事業のため、全社を1つの資産グループとしてグループ化しております。事業の収益性が低下した資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(206,710千円)として、特別損失に計上しました。

2. 平成 20 年 3 月期 業績予想の修正

(1) 中間期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	210	△176	△178	△179
今回修正(B)	106	△181	△180	△386
増減額(B-A)	△104	△5	△2	△207
増減率	△49.5%	—	—	—

(2) 通期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	1,400	57	54	52
今回修正(B)	1,100	13	13	△57
増減額(B-A)	△300	△44	△41	△109
増減率	△21.4%	△77.2%	△75.9%	—

3. 修正理由

(中間期)

当社の製品は、装置1台あたりの販売価格が非常に高額で当社の企業規模に比して大きいため業績を不安定にしております。売上を予定している案件が翌期の計上となった場合、売上高が計画を大きく下回る可能性があることを当社の事業等のリスクとして発表させて頂いております。

しかしながら、当中間期売上高につきまして、上期に売上計上を予定していましたLED（発光ダイオード）生産用パターン転写装置である電子スタンパー「EBLITHO」が、8月の検収予定でしたが、客先の設置場所工事の遅延から装置搬入が実施される下期に売上計上を変更したため計画を下回る結果となりました。

上記を踏まえ、今後当社はこのリスク発生の可能性を十分に認識した上で、発生の回避もしくは発生した場合でも影響を最小限に止めるべく努力をしまいたいと考えます。

また、損益につきまして、全社を挙げて経費削減に努めております結果、営業損失は5百万円の増加、経常損失は2百万円の増加に止まりましたが、中間純損失におきましては減損損失206百万円を特別損失として計上したため386百万円となりました。

(通期)

通期の業績予想につきまして、当社の事業等のリスクを考慮し検討した結果、LED市場に投入し開発・販促を進めております電子スタンパー「EBLITHO」が、顧客での技術評価の遅れから、設備投資予算の実行を順延または保留している状況で装置導入は下期以降にずれ込み、そのため当社の受注状況に好転は見込めず、当初売上予想数値を下回る見込であると判断いたしました。

4. 参考：前期の実績（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期(18/4～18/9)	105	△265	△260	△265
通期(18/4～19/3)	566	△400	△396	△398

※ 上記業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績につきましては、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上